

仕事が楽しい人 F i l e . 8 : 矢吹久美子さん (看護師)

◆矢吹久美子さんが看護師になるまで (前編)

矢吹さんが看護師の資格を取得するために短大へ入学したのは、31歳の時でした。しかも、二児の母。18歳の同級生に混じり、3年間、家事と勉強を両立させた生活を送りました。

毎朝、6時30分起床、家事をこなし、子供を保育園に預けてから、片道1時間30分をかけて通学し、19時ごろ帰宅。そして、家事を終え深夜の12時に就寝するという生活を続けていました。

さぞや、大変な苦労があっただろうと質問をすると、意外にも、「楽しかったです」との答えが返ってきました。

そもそも、矢吹さんが看護師を志したのは小学校1年生の時でした。

ナイチンゲールへの感動が、そのきっかけでした。

高校2年生になり、進路決定の時期に矢吹さんは看護師の道を選ぼうとしましたが、両親から、「いい大学に進学し、いい会社に就職した方が、生活が安定するのでは」と勧められ、看護師への志は、あっさりと諦めました。

そして、無事大学を卒業し、大手旅行代理店に入社。結婚、出産という、幸せな人生を歩みました。

ところが、再就職活動をした際に、矢吹さんは、これまで培ってきたキャリアが生かせない現実に直面しました。

“女性、30歳、二児の母”という事実が、採用の大きな壁として立ちはだかりました。

この時に矢吹さんは、小1の時に抱いていた、“看護師になりたい”という夢を思い出し、一念発起しました。

季節は、冬。

入学試験の日までに残された日数は、わずか1か月。

国語、数学、理科、英語の4つの試験科目を、ご主人にもわからないように家事と掛け持ちで、1日10時間以上、猛烈に勉強したのでした。

結果は、見事、合格。

あっという間に学生生活を終え、卒業式では総代に指名されました。総代は、学業成績が最優秀だった生徒が務めるのが常ですが、

矢吹さんが選ばれた理由は、“ガンバリ”でした。

矢吹さんは、学業だけではなく、ワンダーフォーゲル部に入部し、学園祭でもたこ焼きを焼いて、学生生活を謳歌。

時には、同級生を自宅に招いてホームパーティーを催したりもしました。

このように、看護師になるという志を、楽しみながら成就した矢吹さんの“ガンバリ”を、先生も同級生も、そして、家族も認め、祝福したのでした。

◆矢吹久美子さんが看護師として抱く思い（後編）

矢吹さんは、糖尿病の患者さんを主に看護しています。

糖尿病は、自覚症状がないまま進行し、悪化すると合併症を発症します。

合併症には、大血管障害（心筋梗塞、脳梗塞など）や小血管障害（腎不全、神経障害など）があるそうです。

これらの合併症は、一度発症してしまうと、元に戻すことができないため、早々の治療が求められています。

糖尿病の恐ろしさは、インターネットで検索して調べてみてください。

糖尿病の症例に目を通すと、ゾッとします。

矢吹さんから、糖尿病が原因で、失明してしまうケースや、足を切断するケースについて、生々しく説明していただきました。

糖尿病を発症した患者さんには、生活スタイルの改善指導をするそうです。

具体的には、食事や運動についてです。

よく噛んで食べることや、栄養バランスに塩分の調整。

自覚症状がないために、指導を受けた多くの患者さんは、なかなか食生活を改善できません。

しかし、矢吹さんは、決してこの患者さんたちに「なぜ、決まり事を守れないのですか」と迫りません。

それは、患者さんが叱られるのを嫌がり、病院へ来なくなるという事態を避けたいからなのだそうです。

自覚症状がないのが糖尿病の特徴。

看護師さんに注意されるのが嫌だという理由で、患者さんの足が病院から遠のいてしまったら、糖尿病がより進行し、最悪の結果を招いてしまう可能性があります。

したがって、患者さんには、着実に回復の成果が上がっているという自覚を促す指導スタイルを取り入れています。

おもには、血糖値や体重の推移をグラフにして、見える化することで、自己効力感（セルフ・エフィカシー）を引き出しています。

矢吹さんが、看護師の仕事にやりがいを感じるシーンは毎日あるそうですが、退院した患者さんが外来で病院を訪れ、患者さん自らが矢吹さんを探し出して、「ガンバってるよ」と声をかけてくれることが、本当に嬉しいそうです。

◆矢吹久美子さんが大切にしているキーワード

- ・ 一期一会

患者さんとその家族たちとの出会いは、まさに貴重な出来事。

- ・ 認める

患者さんには、それまで生き抜いてきた素晴らしい人生がある。

その人生は、全てに価値があり、今があることを受け入れる素直な精神が肝心。

◆矢吹久美子さんのコツコツ（継続していること）

- ・自転車通勤（スナップ写真の自転車が愛車）

毎日、30分かけての自転車通勤を継続。

帰り道は、“たまらん坂”を自転車でこぎ上がることで、その日を充実して終えたとの満足感に浸っている。

※たまらん坂：ウィキペディア参照の事：面白いエピソードあり

- ・手料理

ご主人とお子さん二人のお弁当を毎日作り続けている。

夕食もすべて手料理で、冷凍食品は、一切使わない。

- ・読書

1ヵ月間に10冊の読書を続けている。

※一押しの本として、『海峡を渡るバイオリン』をお勧めいただいた。

※早速、読みましたが、無名の著者が独学で、世界最高峰のバイオリンを製作する感動物語でした。みなさんにもお勧めです。

◆矢吹さんのパワー〇〇

- ・嵐

嵐の全てが好きで、コンサートにも足を運んでいる。

- ・家族

子供の成長が、矢吹さんのエネルギーの源

◆矢吹さんの愛用グッズ

- ・聴診器

矢吹さんの名前入り聴診器。4年前に自分へのご褒美として購入した。

- ・手帳

名付けて、矢吹手帳。

食事療法や患者さんの経過観察のポイント等をまとめたノウハウ手帳。

特に、後輩の指導用として活用している。

◆平堀が感じ取った矢吹久美子さんの天使の心

矢吹さんはインタビュー中に、怒の一字が抜けた、喜・哀・楽の表情を見せてくれました。喜と楽は、「矢吹久美子さんが看護師になるまで」と「矢吹久美子さんが看護師として抱く思い」に表れていると思いますが、ここでは、矢吹さんが哀（胸に詰まる思い）で

仕事をされているエピソードを紹介します。

矢吹さんは、職業柄、人間の死を目の当たりにしています。

この現実に関わり直している矢吹さんは、私に、

「命の火が消えるのは悲しいことですが、それは、病気に負けたとか、敗北したという後ろ向きなこととしてとらえるのではなく、患者さんのこれまでの人生に敬意を表して、誰もが避けられない死を真摯に受け止め、送り出す気持ちを持つことが大切だと思うので」と、私に語りかけました。

矢吹さんは、患者さんを人生の先輩と表現します。

そして、患者さんの歩んできた人生を、大いに尊敬できると言います。

例えば、入院したご主人のために毎日看病に通ってくる奥さんに、

「完全看護ですから、お食事の世話や、色々なことは私たちがしますから、あまり無理なさらさないでください」と言うと、

「主人には、返せないくらいの恩があるので、自分にさせてください」との答えが返ってくるそうです。

そして、矢吹さんは、この奥さんから、これまでお二人で歩んでこられた人生について、真剣に丁寧に耳を傾けます。

そうすると、これまでお二人で築きあげてきた尊い出来事が、あふれ出てきます。

このように、矢吹さんは、患者さん、そして、その家族から多くの話を聞くそうです。そうすると、自ずと尊敬の念がわくと言うのです。

ですから、

死はマイナスのことではなく、受け入れるべき大切なこととして送り出してあげたいと、矢吹さんは、目に涙をためて私に話してくれました。

このような思いを持ち、矢吹さんは、看護という仕事に打ち込んでいます。

ところで、矢吹さんは、お子さんが幼少のころから看護師になったので、夜勤の時には、「お母さん、眠れない」と、自宅からたびたび電話が入ったそうです。

このエピソードを

「子供には、寂しい思いをさせてしまいました」

と、お子さんに申し訳なさそうな表情でつぶやきました。

看護師という仕事を全うするには、

夜勤も勤めなければなりませんし、長期休暇も取れません。

したがって、家族には、かなりの協力が求められます。

しかし、矢吹さんがこの件に触れた時、矢吹さんの表情は、哀ではなく、喜・楽でした。

喜・楽というよりも、感謝の気持ちと表現した方がふさわしいかもしれません。

きっと、矢吹さんにとって家族は、応援団なのでしょう。

「お母さん、ガンバって」

「患者さんのために笑顔で仕事をするお母さんって、カッコいい」

という家族からの声援が、
矢吹さんの喜・楽の表情から私に、ピンピンと伝わってきました。
30歳を迎えてから内緒で看護学校を受験した矢吹さん。
そして、合格したことをご主人に告げると、返ってきた答えは、
「すごいじゃん」でした。
「すごいじゃん」と言った、ご主人が「すごいじゃん」で、感動ものです。
矢吹さんのご主人が応援団長で、大団旗を振り、
二人のお子さんが、大声援を送る。
こんな家族の姿が目には浮かびました。
矢吹さんからお話を伺った2時間は、ずっと、
自分の家族も、患者さんもその家族も、みんなみんな愛しています
というオーラが発散されていました。

最後に興味本位でこんな質問をしました。

「矢吹さん、患者さんのおむつの交換とかきつくはないですか」と。
すると、矢吹さんは、
「いいウンチがでていると、やった〜”という気持ちになります」
と、あっけらかんと言いました。
予想外の答えに、私がびっくりした目で矢吹さんを見ると、
「平堀さん、看護師は、みんなこんな思いで患者さんをお世話しているんですよ」
まるで、
「だから病気になっても、安心して私たちに任せてください」
と諭すかのような満面の笑みを浮かべて、私に答えてくれました。

矢吹さんを看護師に導いたナイチンゲールが、次のように言っています。

「天使とは、美しい花をまき散らす者ではなく、苦悩する者のために戦う者のことだ」
まさに、矢吹さんを言い表した、名言です。

◆矢吹さんのプロフィール

職業： 看護師

所属：立川相互病院

◆看護師ってどんな仕事？

(13歳からのハローワーク公式サイトに掲載されている村上龍氏の解説を抜粋しました)
医師が行う診療や治療を補助する。また患者の精神的なケアにあたり、患者と医療スタッフとのコミュニケーションを図るのも看護師の仕事だ。職場は、病院や医院、診療

所、福祉施設、リハビリセンター、あるいは在宅・訪問診療など。看護師になるためには、看護師学校、専門学校、短期大学、大学など看護師養成機関で学び、看護師国家試験に合格しなければならない。なお、都道府県知事が行う試験に合格すると免許が取得できる准看護師資格もあるが、准看護師自体が現在は廃止の方向に向かっている。医療の専門化が進むなかで、看護師の仕事も細かく分かれてきている。また日進月歩の激しい世界なので、つねに勉強を心がける姿勢も大切だ。夜勤など変則的な勤務スケジュールもあり、心身ともに元気で丈夫な人に向いている。こうしたハードである仕事なため、つねに人材不足なので、就職先に困ることはないだろう。なお、1993年に保健婦助産婦看護婦法が改正され、男性にも門戸が開かれた。2002年には「看護師」と名称も統一された。

◆看護師に求められる能力

人を愛する力：その人の人生すべてに敬意を持つ力

話を聞く力：その人に関心を持ち、親身になって話を聞く力

太陽力：北風と太陽の寓話に出てくる太陽のように、人と温かく接する力

専門知識：病気だけではなく、人の心理ケアを含めた専門知識

専門技能：高度化する医療技術を習得し続ける力